

## 【取組事例】

# 湯梨浜町立羽合小学校

＜1学年3学級規模  
学級担任と級外教員による教科担任制＞

### 1 指定校の概要

|              |    |    |     |     |    |    |     |  |
|--------------|----|----|-----|-----|----|----|-----|--|
| (H29.4.1 現在) | 1年 | 2年 | 3年  | 4年  | 5年 | 6年 | 計   | (H29.5.1 現在。臨時的任用の者は常勤の者のみ含む)<br>教員数 34名 |
| 学級数          | 3  | 3  | 4   | 3   | 3  | 3  | 19  |  |
| 児童数          | 90 | 89 | 106 | 102 | 77 | 89 | 553 |  |

### 2 教科担任制の実施概要

| 教科等  | 国語 | 書写 | 社会 | 算数 | 理科 | 音楽  | 図工  | 家庭  | 体育  | 道徳 | 総合 | 学活 | 外国語 |
|------|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|-----|----|----|----|-----|
| 週時数  | 4  | 1  | 3  | 5  | 3  | 1.4 | 1.4 | 1.6 | 2.6 | 1  | 2  | 1  | 1   |
| 6年1組 | A  | G  | B  | A  | C  | H   | A   | H   | A   | A  | A  | A  | A   |
| 6年2組 | B  | G  | B  | B  | G  | B   | B   | B   | A   | B  | B  | B  | B   |
| 6年3組 | C  | I  | C  | C  | C  | C   | C   | H   | A   | C  | C  | C  | C   |

| 教科等  | 国語 | 書写 | 社会  | 算数 | 理科 | 音楽  | 図工  | 家庭  | 体育  | 道徳 | 総合 | 学活 | 外国語 |
|------|----|----|-----|----|----|-----|-----|-----|-----|----|----|----|-----|
| 週時数  | 4  | 1  | 2.9 | 5  | 3  | 1.4 | 1.4 | 1.7 | 2.6 | 1  | 2  | 1  | 1   |
| 5年1組 | D  | D  | F   | D  | E  | D   | D   | H   | D   | D  | D  | D  | D   |
| 5年2組 | E  | E  | J   | E  | E  | D   | E   | H   | E   | E  | E  | E  | E   |
| 5年3組 | F  | G  | F   | F  | G  | D   | F   | H   | K   | F  | F  | F  | F   |

※A=6年1組担任 B=6年2組担任 C=6年3組担任  
D=5年1組担任 E=5年2組担任 F=5年3組担任 G～=担任外

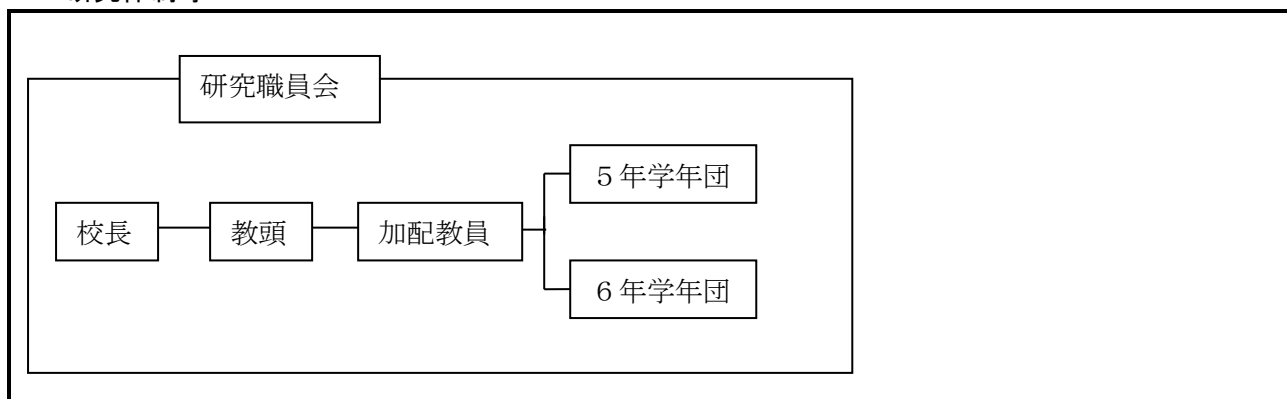
### 3 研究の内容や方法等

教科担任制を導入することによって、複数の教員で児童の様子を多面的にとらえることができると考える。また、児童にとっても自分を評価してくれる先生が多くいることで、自分を認めてくれる大人が多くなり、児童の社会性の育成にもつながる。教員と児童との関係性ができ、学級経営や生徒指導が充実すると考えられる。

さらに、教員も複数回同じ授業を行うことができるため、より専門的な知識や指導法を身に付けることができ、質の高い学習が保証される。これにより、児童の学習意欲・学力の向上が見込まれる。よって、教科担任制の導入により、よりよい学級経営、よりよい授業がつけられ、よりよく生きる子どもが育成されると考える。

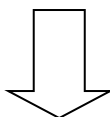
- ・5、6年生において教科担任制を導入し、複数の教員で児童の様子を見る。
- ・学年団内の情報共有を頻繁に行い、児童の様子を把握し、学級経営に生かす。
- ・児童の学力状況や、生活態度の変化等を把握する。
- ・教科担任制に対する児童・保護者・教員の受け止め方を把握する。
- ・教員の指導力向上の程度を把握する。
- ・児童、教員、保護者へのアンケートを実施し、受け止め状況を把握する。
- ・各種学力調査結果を分析し、学力向上の達成度を把握する。
- ・2回のQ-U調査を比較し、学級満足度等を分析する。
- ・児童の不登校及び問題行動等の状況から、児童の実態の推移を見る。

### 4 研究体制等



5 2年間の取組概要と成果 <1学年3学級規模。学級担任と級外教員による教科担任制>

| 1年次の取組概要と成果   | 1年次の課題  |
|---|---|
| <p>&lt;5年（理科、社会、体育）、6年（国語、算数）の担任による授業交換&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教材研究の充実</li> <li>・複数教員による多面的な生徒指導</li> <li>・学年をとおした学習規律の徹底</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・出張や休暇時の対応が困難</li> <li>・担任として個々の全教科の学力の実態（つまりきや学力の定着）が把握できない</li> <li>・教室移動がある教科の時間の開始が遅延</li> </ul> |



| 2年次の成果   |
|--|
| <p>&lt;5年（理科、社会、体育）、6年（社会、理科、音楽）の担任による授業交換&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・指導する教科が絞られるので、教材研究をより深めることができた。</li> <li>・同じ授業を3クラス展開するので、教材研究が深まった。児童が主体的に活動できるよう工夫することができた。</li> <li>・クラスの学習進度等、歩調を合わせることができる。</li> <li>・学習規律を学年で統一し、どの教科担任でも同じルールで学習を進めることができるようになった。</li> <li>・学年児童全員の実態を理解することにより、担任3人がそれぞれ声かけや支援が具体的に行える。</li> <li>・学級担任とは違う視点で子どもを見ることができ、担任が気付いていない面を共有することができた。</li> <li>・教科担任制に関するアンケートにおいて、肯定的な回答をしている児童が多い。 <ul style="list-style-type: none"> <li>○教科によって指導する先生が代わることをよいことだと思うか。5年・・・87%、6年・・・71%</li> <li>○いろいろな先生に指導してもらい、よく分かる内容が増えたか。5年・・・95%、6年・・・82%</li> <li>○いろいろな先生に指導してもらい、落ち着いて授業に取り組むことができたか。 <ul style="list-style-type: none"> <li>5年・・・77%、6年・・・64%</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>・Q-U調査の学級生活満足群に占める割合が全国平均を上回っており、1回目より2回目の方が上回る結果となった。</li> <li>・県国語診断テスト、県算数診断テストにおいて、5年国語は少し下回ったが、他は県全体正答率を上回る結果だった。</li> <li>・教研式標準学力検査NRTの社会、理科の偏差値平均が、国語、算数よりも高い結果だった。</li> </ul> |

| 効果的な取組  |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・時間配分に留意した授業展開を心がけ、次の時間に影響がないように授業を行う。</li> <li>・教科担任が不在になることがあらかじめわかっている場合は、早めに時間割を調整し、授業を行う。</li> <li>・担任との連携を密にし、できるだけ児童の実態の情報交換を行う。</li> </ul> |